

# NEWS RELEASE

<報道関係各位>

ピジョン株式会社

2014年7月23日

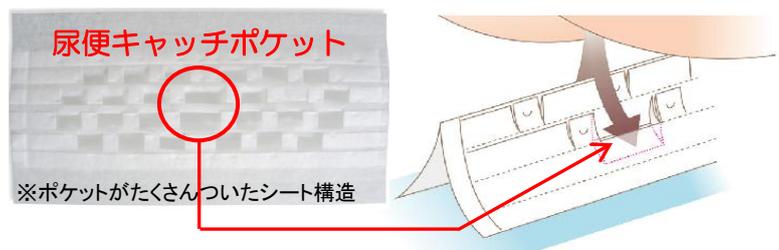
## ～“体にフィットするシート”と“尿便キャッチポケット”が排泄物を広げない～ 新発想の尿モレ・便モレサポート用品「尿便おしりにひろがらないシート」

2014年8月初旬 全国で新発売

ピジョン株式会社(本社:東京、社長:山下 茂)は、排泄介助における尿便モレのお悩みを解決するサポート用品「尿便おしりにひろがらないシート」を2014年8月初旬より新発売します。

本商品は、紙おむつ・尿とりパッドと併用する新しいタイプのシートで、尿とりパッドの上に敷いて使用します。シートは、やわらか素材でどんな体型の方でも体にぴったりフィットするので、モレの原因であるおむつと体との間の「隙間」をつくりません。また、ピジョン新発想の「尿便キャッチポケット」は、尿や便などの排泄物の重みで真下に垂れ下がる構造で、排泄物をポケットでキャッチして尿とりパッドに落とすので、尿便をおしりに広げずモレを防ぐことができます。尿や便が透過した後も、シートに水分が残りにくいので、肌をドライに保つことができます。便はポケットが保持するのでおしりに広がりにくいです。このため、スキントラブルの原因である尿や便の付着する面積が狭くなり、肌への負担も少なくなります。

排泄介助は、昼夜にわたり、1日4～6回程度とケアの回数が多く、最も負担の大きい介護の1つとなっています。尿便モレを防ぐことで、衣類、寝具、紙おむつなどの交換の頻度や作業時間が短縮され、介護負担の軽減につながります。ピジョンは本商品を通して、介護をされる方だけでなく、介護をする方の負担を軽減しサポートしていくことを目指します。

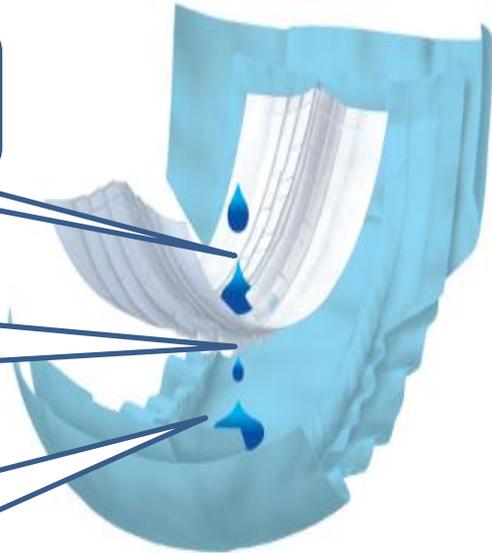


※ポケットがたくさんついたシート構造

※排泄物の重みで真下に垂れ下がるポケット構造が、排泄物をキャッチし、パッドに吸収させる道筋をつくれます。

<ご参考> ● 大人用紙おむつは、要介護者人口の増加に伴い、年々市場規模を拡大しております。アウター(紙おむつ)とインナー(尿とりパッド)という組み合わせ方が一般的になってきています。● 寝て過ごすことが多い被介護者は痩せ型が多く、体と紙おむつの間に隙間ができてやすくなっています。そのため、尿や便などの排泄物が、脚まわりや背中との隙間から紙おむつや衣類に漏れてしまうことが多くあります。(ピジョン調べ)

<商品概要>

商品名	ハビナス 尿便おしりにひろがらないシート
特長	<p style="text-align: center;"><b>シートが体にフィットして 尿や便をひろげずパッドに落とすから パッド・紙おむつからのモレを防ぎます</b></p> <p style="text-align: center;"><b>尿便をおしりにひろげない 3つのSTEP</b></p> <p>※本商品は、紙おむつ・尿とりパッドと併用する新しいタイプのシートで、尿とりパッドの上に敷いて使用します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>STEP1</b></p> <p><b>出た瞬間の尿便をひろげない</b> おしりにフィットしたシートが尿便をキャッチ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>STEP2</b></p> <p><b>尿便をひろげずパッドに落とす</b> ポケットから尿便をひろげず、モレないように、パッドに吸収させる。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>STEP3</b></p> <p><b>シート透過後もひろげない</b> 尿や便の水分はパッドが吸収。水分がシートに残りにくく、肌をドライに保つ。便はポケットが保持するから、おしりにひろがらない。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>介護をされる方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 尿モレ・便モレの <b>不快感・ストレスの軽減</b></li> <li>● 排泄物の付着する面積が狭くなる ⇒ <b>スキントラブルの発生リスク低減</b></li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>介護をする方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 尿モレ・便モレによるおむつ交換・衣類やシーツなどの洗濯などにかかる作業・時間の削減 ⇒ <b>排泄介助の負担軽減</b></li> </ul> </div> </div>
サイズ	37cm × 18cm
枚数	25 枚入り
価格(本体)	350 円
発売日	2014 年 8 月初旬
発売地区	全国

<ご参考>

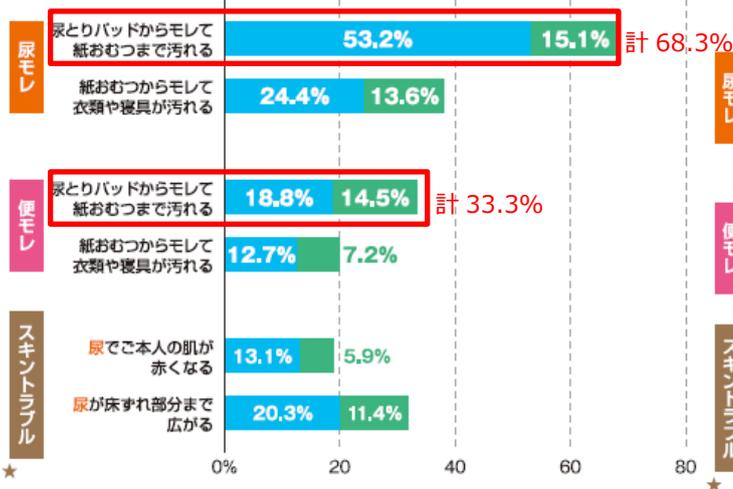
・排泄介護の実態

在宅においては尿が(尿とりパッド)モれてしまう割合は 68.3%、便が(尿とりパッド)モれてしまう割合は 33.3%となっています。また施設では、尿が(尿とりパッドから)モれてしまう方が 1 割以上いる施設が 80% 近くあり、便が(尿とりパッドから)モれてしまう方が 1 割以上いる施設は 70% 程度あることがわかりました。

尿便モレの発生状況 **在宅編**

(ピジョン調べ)

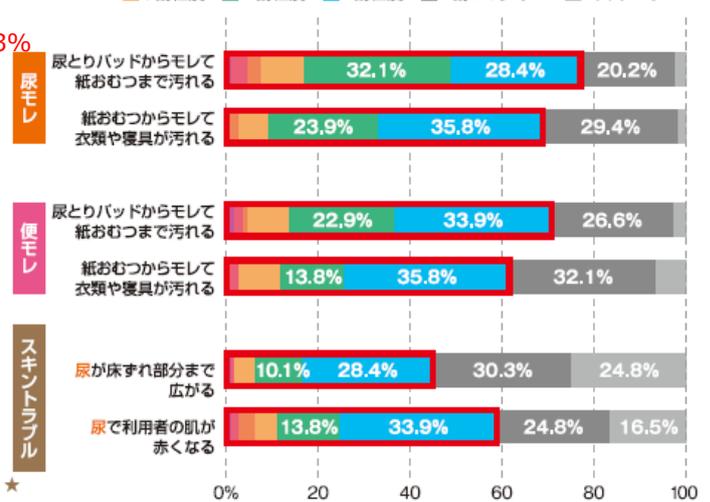
要介護者の尿や便がモれる頻度 n=186(紙おむつ+尿とりパッド使用者)  
 ■ 1週間に複数回 ■ 1週間に1回くらい



尿便モレの発生状況 **施設編**

(ピジョン調べ)

利用者の尿や便がモれる程度と割合 n=109(紙おむつ+尿とりパッド使用者)  
 ■ 半数よりも多い ■ 5割程度 ■ 4割程度 ■ 3割程度 ■ 2割程度 ■ 1割程度 ■ 1割より少ない ■ 1人もいない



便や尿がモレた際には、おむつ交換の作業が増えることやスキンケアトラブルが発生することに困っている状況がわかってきました。

尿や便が、紙おむつからモレた時に起こること

(ピジョン調べ)

尿や便が、紙おむつからモレた時...

- おしり、もも、背中などひろい範囲が汚れる
- 汚れがシワに入り込む
- 汚れが床ずれ部分に付着する
- 要介護者のスキントラブルが起こる

- 紙おむつ、パッドのセットを交換
- 衣類や寝具の交換
- 尿や便を拭き取る範囲が広がる
- 何度も拭き取りが必要になる
- 便を洗い流す



高齢者の肌は乾燥しがちです

肌の角質層が乾燥してひび割れ、  
尿便による刺激に弱くなっています。

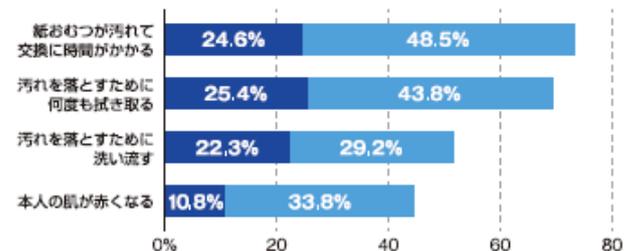
尿や便がモレた時に困っていること **在宅編**



(ピジョン調べ)

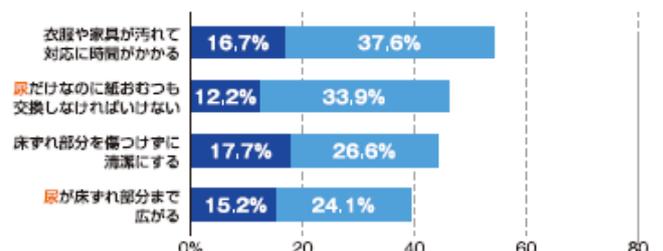
便のお困りごと

n=130(軟便・下痢便が月1回以上出る人)  
 ■ 非常に困っている ■ やや困っている



尿のお困りごと

n=221(紙パンツ・テープ止め使用者)  
 ■ 非常に困っている ■ やや困っている

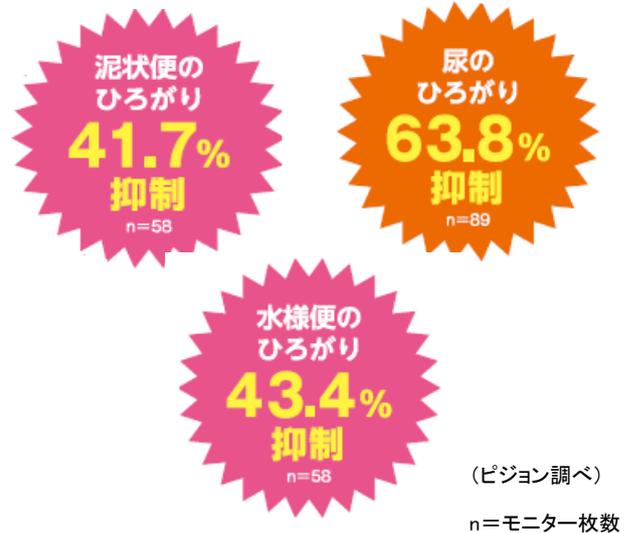


ラボ試験

人工便注入実験

マネキンに尿とりパッド(とシート)を装着し、人工便を80cc注入

介護施設モニター



<開発者のコメント>

●開発で苦労したこと

新しい切り口の商品なので製造マシンもなく、開発をスタートした当初は、すべて試作品は手作りでした。試作品作りにかけた時間は360時間を越えます。モニター実施回数は5回、介護施設の現場でたくさんの排泄介助シーンに立ち会い、のべ100名以上の排泄物を見て検証をしました。最終的な商品の形になるまで、23回の改良・改善を図ってきました。気の遠くなるような作業でしたが、訪問した施設のスタッフの方や施設長の方に「頑張って商品化してね」と何度も声をかけていただいたことが、開発を続ける支えになりました。

●今後の展開

数えきれないほどの排泄介助の現場を見て、排泄ケアのお困りごとの大きさを実感しています。この「尿便おしりにひろがらないシート」によって、少しでも排泄介助が快適になるサポートができればと思います。



本商品開発担当者  
開発本部 設計企画部 リージョナル  
不織布・ケミカルグループ 吉田 英聡



介護施設訪問時の必須アイテム。  
エプロン、手袋、測り、記録用バインダー。



試作品の山の中、試行錯誤を繰り返し、常にプロダクトの改善案を考える日々。